



Pyramix 15.0 リリースノート

Pyramix 15.0 の新機能	2
新しい MassCore RTX 4.5.1 エンジン.....	2
ネットワーク モニタリング.....	2
ARA モニタリングミキサープラグイン.....	3
MacOS Parallels Desktop サポート.....	3
Display Themes.....	3
新しい MassCore RTX 実装.....	4
クリップベースのエフェクト.....	5
改善点	8
ピラミックス 15.0 RC.....	8
ピラミックス 15.0 ベータ 4.....	8
ピラミックス 15.0 ベータ 3.....	9
ピラミックス 15.0 ベータ 2.....	10
再設計されたUI.....	18
Flux VS3 プラグイン.....	30
VST サポート.....	30
Pyramix Transport.....	31
Pyramix フレーム / ツールバー.....	31
Pyramix エディター / タブ.....	31
ネイティブ - VS3 オーディオ設定.....	34





Pyramix 15.0 の新機能

新しい MassCore RTX 4.5.1 エンジン

Pyramix 15.0 は、新しい RTX64 4.5.1 バージョンで実行されます。MassCore ユーザーは、新しい MassCore エンジン RTX64 4.5.1 バージョンに更新する必要があります。

ネットワーク モニタリング

Pyramix 15.0 Network Monitoring では、*Monitoring Mission* を実行している *Anubis* または *MT48* から *Pyramix* バスとダイレクト アウトを自動的にモニタリングできるようになります。

Pyramix のバスとダイレクト アウトは、プロジェクトをロードまたは変更するときに *Pyramix* によって *Monitoring Mission* に自動的に公開され、*Source* で選択できるようになります。
バス名、チャンネル タイプ、バスの順序が公開され、適切に表示されます。

注: *MERGING ANUBIS* または *NEUMANN MT 48* ベータ ファームウェアが必要で、*RAVENNA/AES67* モードで実行する必要があります (*Dante* はサポートされていません)。また、*Ambisonic* バスはサポートされていません (チャンネル マッピングのため)。

Pyramix の設定

この機能は、*MassCore* か、*Native* で *Merging Audio Device* を使用している場合にのみ使用できます。

All Settings > Hardware > Audio Device > Network Monitoring で、使用するチャンネル数を設定します (手動 I/O 接続用に予約されているチャンネル: *[All, 0, 8...]*)。残りの使用可能な I/O はすべて *Network Monitoring* に割り当てられます。

注: この設定を変更すると、現在の手動接続はミキサーに保存されたままになりますが、対応するチャンネルが使用できなくなっているが、別のシステムで使用可能になり適切にパッチされている場合、または機能が無効になっているときにチャンネルが使用可能になった場合は、赤で表示されます。

注 2: ダイレクト出力チャンネルは、*Network Monitoring* に公開するためには 出力にパッチをする必要があります。パッチは、ギャップなく連続して適用する必要があります。

Anubis の設定

この機能は、*Anubis* と *MT48* の *Monitor Mission* でのみ利用可能で、*Settings > Sources* で **enable** する必要があります。

- **Auto Discover Sources: On**
- **Wildcard Filter: DAW*** に設定するとネットワーク上のすべての *Pyramix* が表示されます。
 - 1つの *Pyramix* を選択するには、**DAW_<Pyramix のコンピュータ名>*** を設定します。
 - ネットワーク上で利用可能なストリーマーのサブセットを検出するために *Advanced Filtering* を行うには、多くのフィルタリング オプションを提供するワイルドカード形式 (特殊文字) を使用してください。
 - c 下記に挙げたもの以外の、それ自身を表す任意の文字。つまり、c は文字 c に一致します。
 - ? 任意の 1 文字に一致します。
 - * 0 個以上の任意の文字と一致します。
 - [...] 文字のセットは角括弧で表すことができます。





- *Hide Muted Streams*: ミュートされたオーディオがストリーミングされると、*Source* ページに表示されません。

ARA モニタリングミキサープラグイン

ARA Monitoring プラグインは *Mixer* で使用でき、再生せずに ARA プラグインの直接出力をモニタリングできます。

ARA Monitoring は クリップトラックの *Mixer Strip* に配置する必要があります。

Mixer Effects セクションの下を右クリックして、ARA モニタリングを追加します。

MacOS Parallels Desktop サポート

Pyramix 15.0 Beta 2 は、*Apple Silicon* 上で動作する *MacOS* 上の *Parallels Desktop* でサポートされています。

エントリー レベルの 1 回限りの購入の *Standard Edition* も含め、すべての *Parallels Desktop* バージョンがサポートされています。

調査中の既知の問題:

- *Video* ファイルをインポートしたり開いたりしないでください。
- *Album Publishing* は現在 *Parallels* では利用できません
- *MECO DSD modulator* は使用できません。
- *MAD (Merging Audio Device)* ドライバーを *Parallels/Apple Silicon* で実行するには、*ARM build* が必要です。このドライバーは現在社内テスト中です。利用可能になったときにテストすることに関心がある場合は、betapyramix@merging.com までご連絡ください。
- *Ovation* は *Parallels* ではまだサポートされていません

Display Themes

Pyramix 15.0 ベータ 2 Global Display Themes

- *General Settings* > *Desktop Layout* ページ (右下) で、次の 3 つの異なるテーマが提供されるようになりました。
 - *Dark* (ベータ 1 テーマ)
 - *Gray* (新しいデフォルトテーマ)
 - *Light*

新しい MassCore RTX 実装

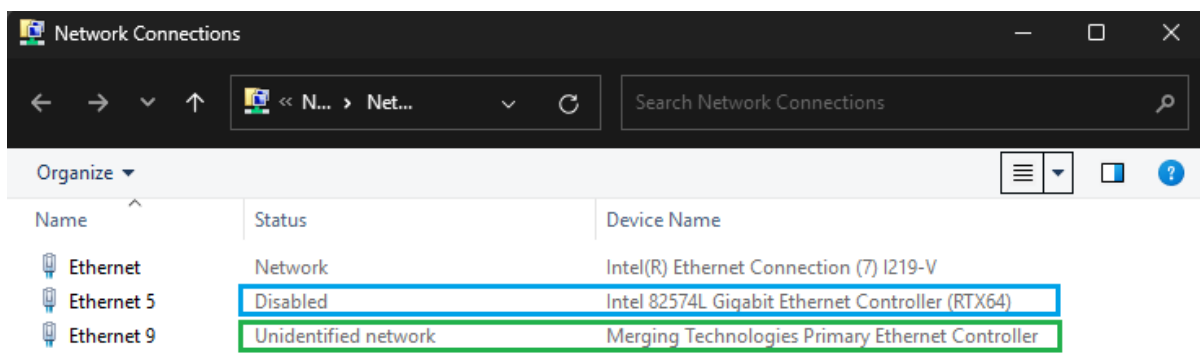
Pyramix 15.0 では、新しい RTX 実装 (NAL) が導入されています。

- *MassCore* ネットワークカードは、直接使用されず、**RTX** 仮想アダプターを介して使用されます。カードは、デバイス マネージャーで「**Merging Technologies PCIe 82574L Ethernet Controller**」として表示されなくなり、「**Intel 82574L Gigabit Ethernet Controller (RTX64)**」および「**Merging Technologies Primary Ethernet Controller**」に変換されます。*MassCore* ネットワーク カードが検出されると、*MassCoreNIC* サービスによって自動的に新しいスキームに変換されます。この操作は少し時間がかかる場合があります。そのため、システムが変換が必要なカードを初めて認識したときは、使用可能になるまでに 1 ~ 2 分かかることがあります。





- *MassCoreNIC* カードが新しいスキームに適切に変換されると、物理カード(下の図の青色)は無効として表示され、仮想の ***Merging Technologies Primary Ethernet Controller*** (下の図の緑色)に置き換えられます。



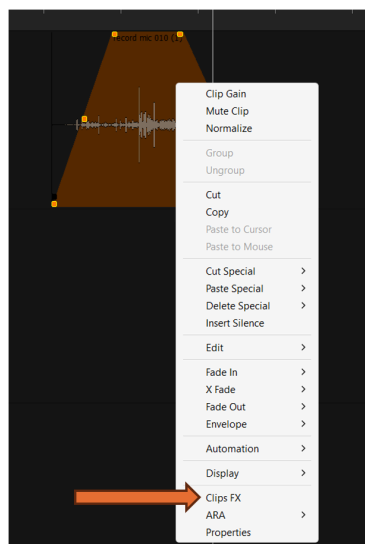
- ***Merging Technologies Primary Ethernet Controller*** (および/またはセカンダリ)は、*TCP/IP* 通信に使用されるものです。静的 *IP* を使用する必要がある場合は、このアダプタで設定する必要があります。
- 新しい *MSC NIC* カードのサポート (*Intel i210 PCIe* ベースの *1Gb* ネットワーク カード)
- *ST2022-7* モード (同じモデルの *MassCore NIC* カードが 2 枚必要)

クリップベースのエフェクト

警告: *DXD* プロジェクトでは、クリップ ベース *FX* を *DSD* メディア (*DSD128-256* も) に使用すると大きなノイズが発生します。

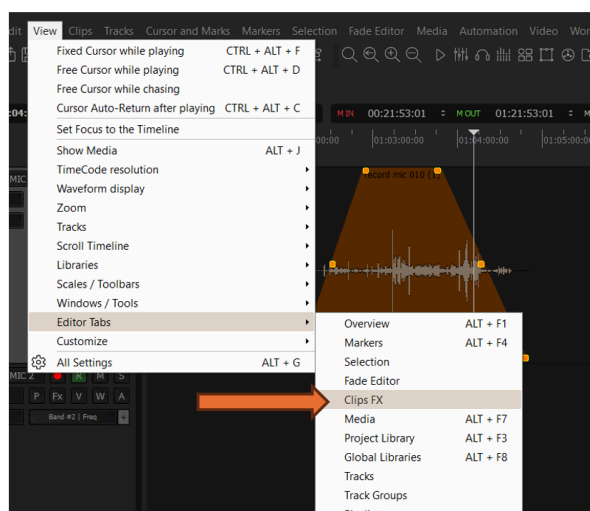
新しいクリップ ベース *FX* は、さまざまな方法で開くことができる新しい *TAB* です。

1. クリップを右クリックして *Clip Fx* にアクセスします。

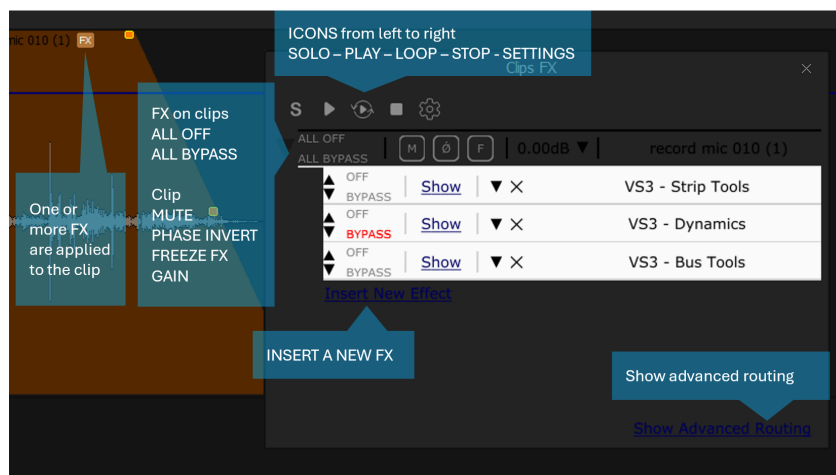




2. メニューの View / Editor Tabs / Clips Fx からアクセスします。



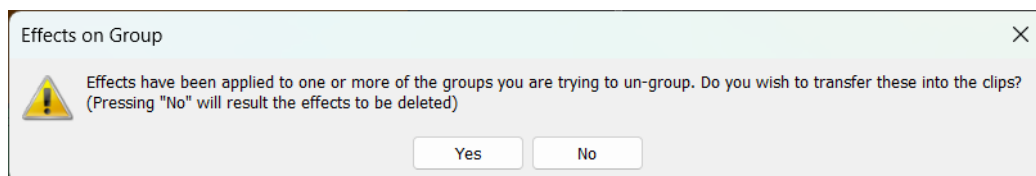
3. 直接TABを開きます。 クリップベースのFXタブ機能



Clip FX は、**Pyramix** 内の **Clip Group** のパラダイムに従います。**Clip FX** を **Group Clip** に適用すると、すべてのクリップに適用されます。

Freeze 機能を使用すると 安全に処理できます。**Freeze** すると、ゲイン、位相反転などを含む **FX**(または複数の **FX**)を含むオーディオ ファイルが自動的に生成されますので注意してください。
Unfreeze(フリーズ解除)をクリックすると、元の状態に戻り、**FX** を変更できます。

クリップ グループに 1 つ以上の **FX** があり、グループ解除を実行すると、次のポップアップが表示され、個々のクリップの動作方法を尋ねられます。

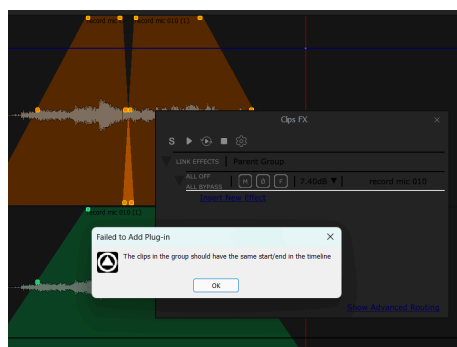


effects have been applied to one or more of the groups you are trying to un-group.
Do you wish to transfer these into the clips ? (Pressing "No" will result the effects to be deleted)
グループ解除しようとしている 1 つ以上のグループにエフェクトが適用されています。
これらをクリップに転送しますか?(No を押すとエフェクトは削除されます)





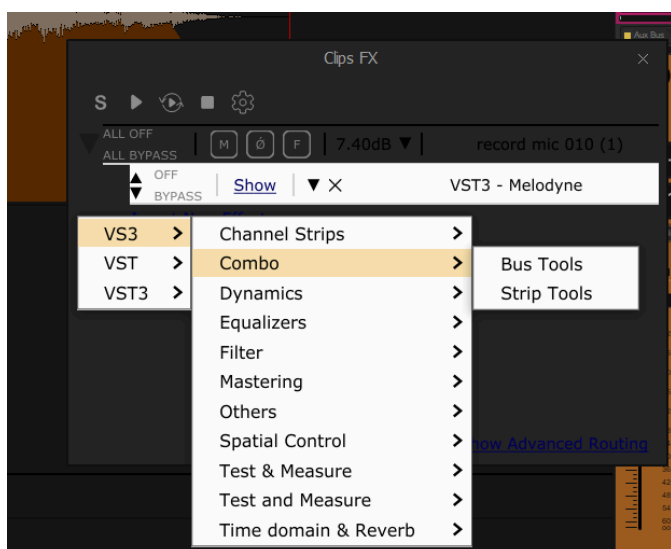
複数のクリップにクリップベースのFXを適用するには、すべてのクリップの長さが同じである必要があります。



プラグインを挿入する方法

ARA2 プラグインを含む VS3、VST、または VST3 プラグインを挿入できます。プラグインはリストの一番下に追加され、矢印をクリックして順序を変更できます。X はプラグインを削除します (元に戻すこともできます)。

ARA2 プラグインは常に最初のプラグインである必要があります。



ARA2 サポート

プラグインが適切にインストールされ、認証され、*General Settings* の *VST Plug-ins settings* で VST3 フォルダがマウントされると、他のプラグインと同様に、VST3 のクリップ ベース FX タブから ARA2 プラグインを挿入できます。

クリップを右クリックして ARA2 を選択すると、プラグインが開き、FX タブに挿入されます。

次のプラグインがテストされています。

- *Celemony Melodyne*
- *Auto Align Post Sound Radix*
- *Auto Align Sound Radix*

ARA Monitoring Mixer プラグイン (ベータ 3)

ARA monitoring プラグインは *Mixer* で使用でき、再生せずに ARA プラグインからの出力をモニタリングできます。

たとえば、*Pyramix* で再生せずに *Celemony Melodyne* の変更をモニタリングできます。ARA

Monitoring は、クリップのトラックの *Strip* に配置する必要があります。

Mixer Effect セクションを右クリックして、ARA *Monitoring* を追加してください。





ClipFX 信号パス

ClipFX (ARA2 プラグインが1 番目) > Clip Gain/Fade/Envelope > Automation

改善点

ピラミックス 15.0 RC

Project Template と VS3 プラグイン プリセットの更新

ピラミックス 15.0 ベータ 4

3D パン軸のキーボード ショートカット

3D パンナー ウィンドウにキーボード ショートカットが追加されました。

- CTRL: 水平方向のみ移動します。
- SHIFT: 垂直移動のみ
- ALT: 回転のみ(以前は CTRL)

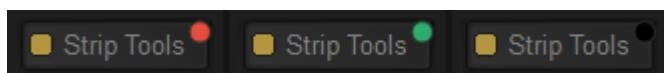
ミキサープラグイン オートメーションモード

ミキサー内のプラグインのオートメーション モードは、色付きのドットで示されるようになりました。VS3 プラグインには オートメーション可能なコントロールのプラグイン UI にも色付きのドットが追加されます。

VSTプラグインのオートメーションの読み取り - 書き込みボタンがプラグインの UI に戻されました。VSTプラグインでは、ミキサー内の VST プラグインを右クリックすると、個々のプラグインのオートメーション メニューが利用できるようになりました。

Strip Effect セクションでは、すべての Strip プラグインのオートメーション モードを設定できます。

- 赤: Record mode
- 緑: Read mode
- 黒: Isolate mode
- Follow Strip Mode - Touch / Trim Touch - Latch / Trim Latch: 追加の表示はありません。



トラックヘッダーの **Monitoring**

トラック ヘッダー モニタリング アイコンが変更されました。

- IR: Auto Monitoring
- R: Repro
- I: Input

ピラミックス 15.0 ベータ 3

Final Chek DXD サポート

DXD プロジェクトで Final Check Metering を使用できるようになりました。

注: DXD の Final Check には追加のフィルタリングは適用されません(20 kHz フィルタは適用されません)。





Mixdown Loudness と True Peak Limiting

True Peak Limiter と Loudness Analyzer がすべてのバスタイプ(最大32チャンネル)にアップグレードされました。

- 注: ログ ファイルは、<Surround5.1> ではなく <MultiChannel> を参照してください。

Monitor Speakerset の Load / Save

Monitor Configure ページでは、ウィンドウの左下に Load と Save ボタンがあります。

- Save: ファイル ダイアログが開き、場所を選択して、選択した Speakerset を拡張子 PMS のファイルとして保存できます。
Downmix を含む Speakerset がファイルに保存されます。
デフォルトのファイル名は Speakerset 名です。
注: 選択した Speakerset の設定 (Patch, Delay, Downmix) のみが保存され、Monitor general settings は保存されません。
- Load: PMS ファイルを選択してロードできるファイル ダイアログを開きます。
ファイルのインポートが成功すると、インポートしたファイルの名前で新しい Speakerset がリストに追加されます。
新しい Speakerset は、モニター ページを切り替えると保存されます。Speakerset の保存名を尋ねるダイアログがポップアップ表示されます。

ピラミックス 15.0 ベータ 2

MXF ハンドラー

MXF ハンドラーが更新され、MXF ファイルのいくつかのオーディオ問題が修正されました。

重要な注意

MXF ハンドラーの変更により、MXF ファイルを含む以前のプロジェクトは再リンクされず、オフラインで表示されません。

- プロジェクトを再リンクするには
 - Pyramixを閉じてください。
 - Media フォルダに移動し、すべての Quickmount ファイルとすべての PK2 ファイル(波形ファイル)を削除します。
 - Pyramix を再起動し、Project > Reconfirm > Relink to new media で、次のオプションを使用してメディアを再リンクします:
Using current Media File Name (or Media Name) / Matching File Name (or Media Name) / Match exactly / Case Insensitive / Ignore TimeCodes オプションにチェックマークを付けます。
 - 波形は自動的に再生成されるはずですが(手動で再生成するには、MXF クリップを右クリックし、Display > Generate Image / Waveform を選択します)。
- 以前のMXFHandlerに戻すには
 - Pyramixを閉じてください。
 - https://download.merging.com/beta/SupportTools/MXF_V15_Priority.zipをダウンロードして解凍します。
 - **MXF_V15_PreviousHandler.reg** をダブルクリックして、Windows レジストリに追加します。
 - Pyramixを再起動してください。
 - **MXF_V15_NewHandler.reg** ファイルを使用すると、新しい MXF ハンドラーが使用できます。





ToolBar のレイアウト

- ツールバーのボタンをアプリケーション タイトル バーに配置できるようになりました。
- *All Settings > Desktop Layout* ページ で、すべてのコマンドのツールバー ステータスが次のいずれかに設定できます。
 - *Show in Toolbar* (以前の名称は *Present*)
 - *Show on Title Bar Left*
 - *Show on Title Bar Right*
- *Pyramix 15* では、すべてのコマンドのデフォルトのツールバー ステータスが再定義されました。
 - *Toolbar* には最小限のコマンドセットのみが保存されています
 - 画面の表示スペースを節約するため、*Title bar* にすべて配置されています。一部は左側に、一部は右側に配置されています。
 - ユーザーはこれまで通り *Toolbar* をカスタマイズできます。
- この新しい方法を推進するために、以前のユーザーに対しても、すべての *Toolbar* を新しいデフォルトにリセットしました。
- 新しいデフォルトが既存のユーザーにとって極端すぎる場合、または既存のユーザーがすべてのツールバーを以前のように手動で再カスタマイズするのが複雑すぎると感じる場合は、次の方法を使用してツールバーのレイアウトを復元できます。

Pyramix を閉じます。

C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Roaming\Merging Technologies\Pyramix\Settings
で、ファイル "*CommandsMapping.pms*" の名前を "*CommandsMapping15.pms*" に変更します。

レジストリの *HKEY_CURRENT_USER\Software\Merging Technologies\Pyramix* で、"*Main Frame Position 15*" フォルダを削除し、"*Main Frame Position 5*" フォルダの名前を "*Main Frame Position 15*" に変更します。

これにより、*Toolbar* のレイアウトが *v14.1* レイアウトに戻ります。





MassCore専用メモリの増加

- **VST 処理チャンネル数の増加**
AES67(48 サンプル) レイテンシー: 最大 512 (44.1/48kHz)、256 (88.2/96kHz)128 (176.4/192kHz)、64 (DXD) チャンネルで VST を処理できます。
低レイテンシー (64 サンプル): 最大 496 (44.1/48kHz)、248 (88.2/96kHz)124 (176.4/192kHz)、63 (DXD) チャンネルで VST を処理できます。
以前は *Pyramix v14.1* で 384 (44.1/48kHz)、192 (88.2/96kHz)96 (176.4/192kHz)、48 (DXD) でした。
- 遅延補正バッファの増加
- **MassCore (RTX エンジン) の再インストールによりこれらの恩恵を受けられます**
15 Beta 2 をインストールした後、コンピューターを再起動してください。MT Security Panel > MassCore タブに移動して、MassCore Runtime の Uninstall をクリックします。指示に従ってコンピューターを再起動します (MassCore 以外のブート ラインがまだ存在する場合はそれを選択します)。
再起動すると、MassCore Runtime (RTX) が自動的にアンインストールされます。アンインストール プロセスはサイレントであり、進行状況バーは表示されず、タスク バーに RTX64 の表示のみが表示され、数分かかる場合があります。
アンインストール プロセスの最後に、コンピューターが自動的に再起動します。
再起動後、MT Security Panel > MassCore タブに移動して、MassCore Runtime の Install をクリックします。
インストール プロセスはサイレントであり、終了するとコンピューターを再起動するように求められます。
次に、VS3 Control Panel を起動して、MassCore を確認してください (MassCore に割り当てられているコアの数を変更するには、管理者として実行してください)。

Final Check

- 再設計されたUI
- 最大 32 チャンネルのマルチチャンネルをサポート
バス リストからバスを選択すると、そのラベル付け、チャンネルの順序付け、番号付けが自動的に適応されます。
- マルチチャンネルメーター
- ラウドネス標準リストを更新しました。Spotify, Spotify Loud, Apple Music, Amazon Music, YouTube, Deezer, CD (Full Scale), Soundcloud, Tidal, Netflix Dialog, Dolby Atmos (メインベッドのみ) のプリセットが追加されました。
- 既知の問題: Final Check Settings ページはスケーリングをサポートしていません。
- **注意: Dolby Atmos ADM マスターは、Dolby Atmos レンダラーで測定された場合にのみ承認されます。**





Platform	Peak	Loudness	Dynamic Range
Spotify	- 1.0 dBTP	- 14 LUFS	> 9DR
Spotify Loud	- 2.0 dBTP	- 11 LUFS	> 9DR
Apple Music	- 1.0 dBTP	- 16 LUFS (± 1.0 LUFS)	> 9DR
Apple Podcasts	- 1.0 dBTP	- 16 LUFS (± 1.0 LUFS)	> 9DR
Amazon Music	- 2.0 dBTP	- 14 LUFS	> 9DR
YouTube	- 1.0 dBTP	- 14 LUFS	> 9DR
Deezer	- 1.0 dBTP	- 15 LUFS	> 9DR
CD (full scale)	- 0.1 dBTP	> -9 LUFS	> 9DR
Soundcloud	- 1.0 dBTP	- 8 to - 13 LUFS	> 9DR
Tidal	- 2.0 dBTP	- 14 LUFS	> 9DR
Netflix dialog	- 2.0 dBTP	- 27 LUFS (± 2.0 LUFS)	> 9DR
Dolby Atmos (上記注意をご覧ください)	- 1.0 dBTP	- 18 LUFS (± 0.1 LUFS)	> 9DR

オートメーションカーブ編集

オートメーション カーブの編集が変更されました:

- オートメーションポイントをクリックします。
 - その点を移動
 - ポイントを移動中:
 - その前または後に別のポイントに当たった場合、そのポイントは削除されます。
 - 移動中にコントロールキーを押すと、別のポイントに当たったときにそのポイントを削除するのではなく、移動をブロックすることができます。
 - *H*を押すとポイントは水平方向にのみ移動します(時間のみ変更)
 - *V*を押すとポイントは垂直方向にのみ移動します(値のみ変更)
 - *B*を押すと、ポイントは前のポイントと同じ値に強制されます。
 - *N*を押すと、ポイントは次のポイントと同じ値に強制されます。
- オートメーションラインセグメント(ポイントの外側)をクリックする。
 - そのセグメントに新しいポイントを作成します。
 - 上記と同じ動作と修飾子
- *SHIFT*を押しながらオートメーションポイントをクリックします。
 - 選択したポイントはすべて同時に移動します。
 - 上記と同じ動作と修飾子(ただし、*B* と *N* はマルチポイント選択には適用されません)。
- オートメーションポイントまたは線分上のポイント間を *Ctrl* キーを押しながらクリックします。





- 現在の選択範囲の両境界に2つの新しいポイントが作成され、選択範囲の境界の外側でエンベロープの線分が変更されないことが保証されます。
- 選択範囲全体を垂直方向に移動できるようになりました(値のトリミング)。
- **Ctrl + Shift** を押しながら、エンベロープポイントまたは線分上のポイント間をクリックします。
 - ペンモードを有効にして新しいポイントを自由に描画します。
- **Ctrl + Alt** を押しながら、エンベロープポイントまたは線分上のポイント間をクリックします。
 - 消しゴムモードを有効にしてポイントを自由に消去します。

クリップエンベロープ編集

エンベロープの編集が再編成されました:

- エンベロープポイントをクリックする。
 - 選択したクリップグループ内の同じ/整列したポイントと同様にそのポイントを移動します。
 - ポイントを移動中:
 - その前または後に別のポイントに当たった場合、そのポイントは削除されます。
 - 移動中にコントロールキーを押すと、別のポイントに当たったときにそのポイントを削除するのではなく、移動をブロックすることができます。
 - **H**を押すとポイントは水平方向にのみ移動します(時間のみ変更)
 - **V**を押すとポイントは垂直方向にのみ移動します(ゲイン値のみ変更されます)
 - **B**を押すと、ポイントは前のポイントと同じゲイン値に強制されます。
 - **N**を押すと、ポイントは次のポイントと同じゲイン値に強制されます。
- エンベロープの線分(ポイントの外側)をクリックする。
 - そのセグメントに新しいポイントを作成します。
 - 上記と同じ動作と修飾子
- **SHIFT**を押しながらエンベロープポイントをクリックします
 - 選択したポイントはすべて移動します。
 - 上記と同じ動作と修飾子(ただし、**B** と **N** はマルチポイント選択には適用されません)
- **Ctrl** キーを押しながら、エンベロープポイントまたは線分上のポイント間をクリックします。
 - 現在の選択範囲の両境界に2つの新しいポイントが作成され、選択範囲の境界の外側でエンベロープの線分が変更されないことが保証されます。
 - 選択範囲全体を垂直方向に移動できるようになりました(トリミングが可能)。
- **Ctrl + Shift**を押しながら、エンベロープポイントまたは線分上のポイント間をクリックします。
 - ペンモードを有効にして新しいポイントを自由に描画します。
- **Ctrl + Alt** キーを押しながら、エンベロープポイントまたは線分上のポイント間をクリックします。
 - 消しゴムモードを有効にしてポイントを自由に消去します。

その他の改善点





- 重要な注意: 従来のマルチモノおよびマルチステレオ バスは、自動的に *Object* バスに変換されます。
- ミキサー下部の *Strip* チャンネル タイプを *Ctrl+Shift* による複数選択に従って変更します (*SHIFT*: すべての *Strip* チャンネル タイプを変更 / *CTRL+SHIFT*: 選択した *Strip* チャンネル タイプを変更)。
- ミキサーの右下にツールチップ [?] を追加しました。クリックすると情報 (*Strip* の数、バスなど) が表示されます。
- いくつかのウィンドウの左上隅にナビゲーション矢印を追加しました (チャンネル ルーター、*3DPanner*、*VS3* プラグインなど)。
- ミキサー (折りたたまれていないバス) の *Aux* バス / *Aux* グループ レベルが復元されました。
- *ClipFX*: バイパスプラグインボタンが削除されました (オン/オフ)。
- *VST* プラグイン用のプリセット メニューが追加されました。プラグインの右上のメニューからアクセスできます (*PluginAlliance VST3* の問題を調査中 - *VST3* のみ)。
- *Pyramix* 起動スプラッシュ画面: ライセンス タイプが追加されました。





再設計されたUI

Pyramix 15.0 Beta 1 の UI が再設計されました。

メインミキサー

- 新しいキャプションバ
 - ミキサーを閉じる
 - ミキサーの最小化/最大化
 - 新メニュー
 - メインセクション
 - I/O ルーティング (ルート ページを別のフローティング ウィンドウに置き換えました)
 - メーターブリッジの有効化/無効化
 - Atmos Connect
 - 表示スケールの選択
 - システム表示スケールに従う (デフォルト)
 - 独自のカスタム表示スケール
 - ミキサーのユーザーインターフェースを再設計
 - メインミキサー (下記参照)
 - Configuration ページはなくなりました。すべての機能はメインミキサーウィンドウに実装されています。
 - Route ページが 別のフローティングウィンドウに置き換えられました (上記のメインセクション を参照)
 - Organize ページは廃止されました。すべての機能は右クリックメニューからアクセスできます。
 - Atmos Connect がメインメニューに移動しました (上記参照)
- ナビゲーション
 - 新しいナビゲーションサイドボタン
 - Strip - 下部
 - Strip の折りたたみ/展開ボタン
 - スクロール時に Strip を常に表示するためのピンボタン
 - Strip のオプションをさらに表示するための、以前のツールチップスタイルのメニューを表示するメニューボタン
 - エフェクト関連のメニュー項目が Strip 下部のツールチップメニューからエフェクトコンポーネントメニューに移動されました
 - エフェクトメニューに、Automation の Pre/Post のエフェクトステータスが表示されるようになりました。
 - 現在、エフェクトメニューで使用可能なすべての FX、すべての VS3 FX、すべての VST FX を削除します。
 - Busses - 右
 - Bus の折りたたみ/展開ボタン
 - Bus 名ボタンはメニュー ボタンとして機能し、Bus のその他のオプションを表示する以前のツールチップ スタイルのメニューを表示します。
 - 右セクション
 - ミキサーの右側部分を拡大
 - Bus 名の表示を改善
 - ボタンの再編成
 - [O] オーバーロードリセット (従来通り)





- [SC] Strip カラーのオン/オフ(従来通り)
 - [BC] バスカラーのオン/オフ(従来通り)
 - [GC] グループカラーのオン/オフ(従来通り)
 - [FL] シグナルフローのオン/オフ(従来通り)
 - 注: [FL]を *Ctrl* + クリックすると、ミキサー全体が現在選択されている信号フローのみにフォーカスされます。
 - [S1]、[S2]、[S3]、[S4] ミキサービューを設定/呼び出すための 4 つのビュースナップショット:
 - Strip の折りたたみ、非表示、固定状態
 - BUs の折りたたみと非表示の状態
 - ミキサーの位置とサイズ
 - スクロールバーの位置を削除します
 - クリックしてスナップショットを呼び出す
 - スナップショットを設定するには、*Control* + クリックします
 - スナップショットをリセットするには、*Ctrl* + *Shift* + クリックします。
 - [DC] 遅延補正のオン/オフ(以前は設定ページにあった)
 - [DS] 遅延補償状況(従来通り)
 - [AC] Atmos Connect ステータス/接続 (以前はミキサーのキャプション バーにありました。メイン メニューでも利用できます。上記を参照)
- Master Strips を移動できるようになりました
 - Master Strips は、Input Strip やVCAとともに自由に移動したり挿入したりできます。
 - Master Strips を複数選択できるようになりました
 - Strip の移動は、*Control* + *Shift* + *Alt* を押しながらドラッグアンドドロップすることで行えます。
 - Master Strips に関連付けられたバス行は、Master Strips の順序に従って並べ替えられます。
 - ドラッグ&ドロップ操作中に*Esc*キーを押すと、操作がキャンセルされます。
- I/Oセクション
 - 再設計されたセクション
 - 〇 入力 1-8 または 〇 出力 1-8 シルクスクリーンをクリックすると、8 を超えるチャンネル数を持つ Strip / Bus のチャンネルを切り替えることができます。
 - チャンネルインジケータの左側にあるチャンネルタイプ文字をクリックすると、そのチャンネルのチャンネルタイプを変更できます。
 - チャンネルインジケータの右側にある接続番号をクリックすると、そのチャンネルの接続を変更できます。
 - すべての標準接続の下にダイレクト出力コネクタを配置
 - ダイレクト出力のオン/オフとプリ/ポストをミキサー内で直接操作可能
 - 遅延と入力モードがセクションの下部に移動されました
- プリアンプ部
 - 再設計されたセクション
 - プリアンプコントロールがすべてのStrip タイプで利用可能になりました
 - モノStrip では、ボタンは利用可能なプリアンプのみを制御します
 - ステレオおよびマルチチャンネルStrip では、上部のインジケータの右側をクリックすると、コントロールするチャンネルを選択できます。





- すべての選択した場合、すべてのチャンネルがリンクされ、すべてのゲイン間のオフセットが保持されます。
- 上部のインジケータの左側をクリックすると、入力タイプ(マイク/ライン/インスト)を選択できます。
- ソロ/ミュートセクション
 - 再設計されたUI
 - 以前のバージョンと同じ機能
 - グループ(ミックスとAux)をソロにできるようになりました
 - ソロの場合、そのグループにSendしているすべてのStripは、そのグループにSendされ続けますが、他のすべてのグループにはSendされません(ソロでない限り)。
 - ソロ以外のStripのミュートボタンは、ソログループにSendされているものであっても、赤く点滅したままです。
- ゲイン/フェーダーセクション
 - 再設計されたUI
 - 以前のバージョンと同じ機能
- パンニングセクション
 - 再設計されたUI
 - 3D/2D表示モードが統合されました
 - パンナーウィンドウに一致するロータリーボタンを使用して再設計された1D表示モード(下記参照)
 - 折りたたみモードが再設計されました。カーソルをダブルクリックすると、パラメータがリセットされます(左いっぱい/右いっぱい/中央/Yaw 0°)
- エフェクトセクション
 - 再設計されたセクション
 - エフェクトスロットにエフェクト名とボタンが表示されるようになりました。
 - 有効かつ動作中の場合は黄色
 - バイパスの場合は赤(ボタンをクリックするだけ)
 - 無効の場合はグレー(ボタンをCtrl + クリック)
 - Summary表示
 - Stripのエフェクトスロットに何らかのEQが存在する場合、セクションの上部にサマリーEQカーブ表示が表示されます。VS3エフェクト(EQ Param、EqX、StripTools、BusTools)でのみ使用可能です。
 - Stripのエフェクトスロットに何らかのダイナミックセクションが存在する場合、セクションの上部にダイナミクスカーブの概要表示が表示されます。VS3エフェクト(ダイナミクス、Stripツール)でのみ使用可能です。
 - EQまたはダイナミクスのSummaryをクリックすると、エフェクトUIが開きます。
 - セクションの下部に新しいボタンが追加されました
 - [+]をクリックすると、新しいエフェクト追加ダイアログが開きます(下記参照)
 - [-]を押すと、このStripのすべてのエフェクトUIが閉じます。Shiftキーを押すと、すべてのStripのすべてのエフェクトUIが閉じます。
 - [[]]をクリックすると、このStripのすべてのエフェクトUIが開きます。
 - [=] このStripのVS3 PreまたはPost VST設定を変更します





- *Ctrl + Shift*を押すと、ハイライトされたすべての*Strip* の設定が変更されます。
- *Shift*キーを押すと設定がすべての*Strip* に変更されます
- 新しいエフェクト追加のダイアログは、エフェクト追加メニューに代わるものです。
 - *Merging VS3, VST3, VST2*の選択
 - *VST* の会社またはカテゴリで並べ替え
 - 名前でエフェクトを検索
 - *Ctrl + Shift* キーを押しながら *Add Effect* ボタンをクリックすると、ハイライト表示されたすべての*Strip* にエフェクトが追加されます。
 - *Shift*キーを押しながら *Add Effect* ボタンをクリックすると、すべての *Strip* にエフェクトが追加されます。
- コンテキスト左クリックと右クリックメニューが再編成されました
- エフェクトのドラッグ & ドロップが利用可能になりました
 - 効果をクリックしてドラッグします:
 - 同じ*Strip* のエフェクトトラック内の位置を変更するには
 - 別の*Strip* に移動するには
 - 遅延補正は適切に再計算されたようです
 - コントロールキーを押して別の*Strip* にコピーするには
 - *Ctrl + Shift* を押して選択したすべての*Strip* にコピーします (*VS3* のみ)
 - ドラッグ & ドロップ操作中に *Esc* キーを押すと、操作がキャンセルされます。
- **Send**セクション
 - セクションの再設計、パラダイム全体の再設計
 - スロットをフラット化して、*Bus Send* 名、*Send On/Off* ボタン、スロットの下 の *Send* メーターのみを表示します (*Bus*が折りたたまれている場合は非表示)。
 - *On/Off* ボタンをクリックするだけで *Send* を有効/無効にできます。
 - 有効にすると、名前をクリックするだけでバストリミングまたはチャンネルルーティング ウィンドウが開きます。
 - バストリミングまたはチャンネル ルーティング ウィンドウでは、次の 2 つのモードを選択できます。
 - *Panner*
 - チャンネルルーティング
 - *Panner* モードでは、ダイアログにバストリミングコントロール(以前と同じ)とクリアボタン(以前と同じ)が表示されます。
 - チャンネルルーティングモードでは、ダイアログにチャンネルルーティンググリッド(以前と同じ)とクリアおよびリセットボタン(以前と同じ)が表示されます。
 - ダイアログのカーソル/ロータリーに表示される色は、*Bus* の種類によって異なります (*Mix Bus* は赤、*Mix Group* は青、*Aux Bus* は黄色、*Aux Group* は緑)。*Ambisonic Strip* はテキストが青になります。
 - *Aux Mix* バスと *Aux Group* バスは、バストリミングまたはチャンネル ルーティング ウィンドウに次の機能も追加されます。
 - センドゲイン(メインUIと同様)
 - *Pre/Post* フェーダー センド設定(メインUIと同様)
- **Object Sends**
 - *Object* バスは、灰色のボタンをクリックするだけで *Object Routing* ウィンドウが開きます。





- **Object Routing** ウィンドウで
 - 未使用の **Object** バスチャネルは灰色で表示されます。
 - この **Strip** で使用される **Object** バスチャネルは紫色で表示されます。
 - 別の **Strip** で使用されている **Object** バスチャネルは赤で表示されます。
 - ダークグレーで使用できないボタンはなくなりました。ボタンの数はバスのチャネル数と一致します。
 - **Strip** チャネルのいずれかが **Object** バスに **Send** されると、**Send** ボタンが紫色で表示されます。
 - **Object** バスでの **Send** を無効にするには、**Send** スロットをクリックして **Object Routing** ウィンドウを開き、すべての紫色のボタンのチェックを外します。スロットボタンはグレーに変わります (前と同じ)。
 - **Strip** チャネルのいずれかが **Object** バスに送られると、その **Strip** 上のすべての **Mix Bus** と **Mix Group Send** は無効/グレー表示されますが、**Aux Mix** と **Aux Group** には引き続き送られます (以前と同様)。
 - **Object** バス [**OB**] のマスター フェーダーで **Object** バスを無効にすると、**Object** バスに接続されているすべての **Strip** の **Send** が、**Send** 先のミックス バスまたはミックス グループにリセットされます (以前と同様)。
 - **Mix Bus** と **Mix Group** のマスター フェーダーに **Object** セーフ ボタン [**OS**] が追加されました。有効にすると、このバスに入る **Strip** は、有効な **Object** バスに同時に **Send** されていても **Send** され続けます (これは **Aux** バスと **Aux** グループのデフォルトの動作ですが、**Mix Bus** と **Mix Group** ではオプションです)。
 - この機能のビジュアルは、この新しいパラダイムでより良く表示されます
- **Ambisonic Sends**
 - アンビソニックバスまたは **Strip** では、トリミング/チャネルルーティングウィンドウに適切なミキシング/ルーティングモードが表示されます (メインUIの場合と同様)
 - チャンネル **Strip** からアンビソニックバスへ
 - トリミング/ルーティングウィンドウは利用できません。純粋なアンビソニックエンコーディングです。
 - アンビソニック **Strip** からアンビソニック バスへ:
 - ミキシングのみ
 - 回転 + ミックス
 - アンビソニック **Strip** からチャンネルバスへ
 - デコーダーのみ
 - 回転 + デコーダー

Panner

- ディスプレイスケーリングのサポート。ミキサーディスプレイスケール設定に従います。
- 再設計されたユーザーインターフェース
- エフェクトパラダイムに一致する **Strip** タブ
- エフェクトパラダイムに合わせた下部コントロールの回転ボタン
- 新しい表示設定:
 - トップ+リア (従来通り)
 - トップのみ
 - 円筒形のみ
- 新しい **MS** デコーダー
- ステレオ **Strip** では、4 番目のデュアル ソース モードが提供されるようになりました。
 - シングルパン
 - デュアルパン
 - バランス





- **MSデコーダー**
- *Strip* の左チャンネル(*MS* ミッドまたは *A* チャンネル)は、モノ *Strip* シングル パンに従ってすべてのスピーカーにパンされます。これはパンナー ウィンドウと*Strip* パンニング領域で黄色のボールとして表示されます。
- *Strip* ライト チャンネル(*MS* サイドまたは *B* チャンネル)は、上記のミッド チャンネルと同じパン情報を使用してデコードおよびパンされますが、左と右のスピーカーのみにパンされます(すべてのセンター スピーカーからは除外されます)。これは、パンナー ウィンドウと*Strip* パンニング領域で、ミッド イエロー ボールの両側にある 2 つの白い円(*MS* ロゴのような)として表示されます。
- *Strip* が *MS* デコーダー モードの場合、*Divergence* ロータリー ボタンの名前は *Side* に変更され、サイド ゲインの制御に使用されます(デフォルトではオフ)。
- メニューの *Add MSStrip* は削除されました。*MSStrip* は、上記のように*MS*デコーダーデュアルソースモードで設定されたステレオ*Strip* に置き換えられました。

Monitor

- 再設計された *UI*。以前のバージョンと同じ機能に加え、次のような変更点があります。
 - **Monitor ページ**
 - ボリューム最大値、*Dim*値、*Ref*値が追加されました
 - 5.1 から 7.1 へのマッピング オプションが追加されました:
 - *Ls/Rs*から*Lss/Rss*: サイドの位置が110度に設定されている場合に使用できます。
 - *Ls/Rs* から *Lrs/Rrs*: デフォルト/レガシー互換性
 - *Ls/Rs*から*Lss-Lrs/Rss-Rrs*: サラウンド5.1はサイドとリアスピーカーに再分配されます。これにより、5.1マッピングスピーカーの配置に対応するファントムスピーカーが生成されます。
 - スピーカー ファンクション モードをメニューから選択可能
 - スピーカーの外側の部屋をクリックすると、スピーカーモードをリセットできます
 - *Link* モードがメニューに移動されました
 - スピーカーセットとミックスダウンの *Next/Previous* ボタンは削除されましたが、アプリケーションのモニターメニューからは引き続き使用できます。
 - *Auto-talk* オプションがメニューのそのページに移動されました
 - *None*
 - *Auto-Talk on Stop*
 - *Reset Talk* オプションはメニューのそのページに移動しました
 - *None*
 - *Reset Talk on Play*
 - *Reset Talk on Rec*
 - *Reset Talk on Play+Rec*
 - **Configuration ページ**
 - *Speakerset* を追加すると、入力マッピングとミックスダウン係数が自動的に入力されます。
 - ボリュームの *Max*, *Dim*, *Ref* 値が*Monitor*ページに移動されました。
 - *Speakerset* と *Mixdown* は移動できません。
 - ステレオスピーカーセットでモノラルにダウンミックス
 - **External ページ**
 - 以前と同じ機能をモダンな*UI*に変更





- **Talk ページ**
 - 以前と同じ機能をモダンなUIに変更
 - Stop/Record/Play オプションはMonitorページに移動されました。
- ディスプレイスケーリングのサポート
- 工場出荷時のデフォルトの動作が変更されました。
 - 工場出荷時のデフォルトのスピーカーセットは削除されました。
 - ユーザースピーカーセットが存在しない場合は、出力1-2にパッチされたデフォルトのステレオスピーカーセットが作成されます。
- 新しいキャプションバー
 - Close Monitor
 - Menu
 - Monitor セクションの有効化/無効化
 - モード選択
 - Monitoring
 - Configuration ページ
 - External 設定
 - Talkback 設定
 - 表示スケールの選択
 - システム表示スケールに従う
 - 独自のカスタム表示スケール

Meter ブリッジ

- 再設計されたUI、以前のバージョンと同じ機能

Effects

- 再設計されたUI
- ディスプレイスケーリングのサポート
- すべてのエフェクトを共通のルック&フィールに再調整する

すべてのVS3エフェクトに共通

- エフェクトカテゴリーの再編成
- 新しいキャプションバー
 - クローズ効果
 - メニュー
 - インスタンスの選択 (インスタンス コンボ ボックスの置き換え)
 - 表示スケールの選択
 - 各エフェクトはシステム表示スケールに従うことができます。
 - 各エフェクトはミキサー表示スケールに従うことができます(デフォルト)。
 - 各エフェクトには独自のカスタム表示スケールを設定できます。
- ピンボタン
 - 固定すると Strip またはバスの選択が変更されても現在のインスタンスはアクティブのままになります。
 - インスタンスタブで別のインスタンスを選択すると、ピンはバイパスされ、新しいピン留めインスタンスが設定されます。
- リセットボタン[R]





- 5つのクイックプリセットボタン [1] ... [5]
 - クリックしてリコール
 - Ctrl + クリックで保存
 - Ctrl + Shift + クリックで削除
- 新しいインスタンス タブ (インスタンス コンボ ボックスの置き換え)
 - アクティブなエフェクトインスタンスを表示します。
 - Strip // バスの色を表示します。
 - いっぱいになったらマウスでスライドして隠れたインスタンスを表示します。
- すべてのエフェクト用の新しい汎用ユーザーインターフェイスコントロール
 - インスタンスタブにできるだけ多くのインスタンスを表示するための水平表示
 - すべてのエフェクトに同じコントロール/ボタン設計
 - エフェクトをサポートする汎用ルーティングセクション
 - 汎用サイドチェーンセクション (エフェクトをサポート)

パラメトリックEQ

- 以前のバージョンと同じ機能
- 64ビット処理
- 6dBゲイン オーバーロード時の表示 と スケーリングの改善
- Anubis に合うカラーコード

10バンドEQ

- 以前のバージョンと同じ機能

Tone

- 以前のバージョンと同じ機能

Dynamics

- 以前のバージョンと同じ機能
- 新しいグラフィックディスプレイ
- モノラル、ステレオ、またはマルチモノラル (従来通り)
- サイドチェーンのサポート
- サイドチェーン入力Strip の選択
- サイド チェーン入力Strip がステレオまたはマルチチャンネルの場合、次の選択肢が提供されます。
 - サイド チェーン入力Strip の使用可能なすべてのチャンネルを使用します。ダイナミクスでは、最初の 2 つのチャンネルのピークが検出に使用されます。
 - すべてのサイドチェーン入力Strip チャンネルのモノラルミックスを使用する
 - サイドチェーン入力Strip の1つのチャンネルを選択します
- ポストFX
 - サイドチェーン入力Strip で、サイドチェーン入力信号のエフェクト前またはエフェクト後を選択します。
 - ダイナミクスのEQがアクティブな場合はサイドチェーン入力に適用されます。

EQ-X

- 以前のバージョンと同じ機能
- 6dBゲイン オーバーロード時の表示 と スケーリングの改善
- 以前の EqX に一致するカラーコード





Strip ツール

- 以前のバージョンと同じ機能
- 64ビット処理
- 最大32の個別チャンネル処理
- 完全に再設計されたユーザーインターフェース
- 新しいルーティング機能、チャンネル選択
- ダイナミクスセクション入力またはサイドチェーン入力用のEQバンドが1つ追加されました。
- EQ プリダイナミック オプションはデフォルトで有効になっています (新しいプラグイン インスタンスでは、既存のプロジェクトのStrip ツールは変更されません)
- サイドチェーンのサポート
 - サイドチェーン入力Strip の選択
 - サイド チェーン入力Strip がステレオまたはマルチチャンネルの場合、次の選択肢が提供されます。
 - サイド チェーン入力Strip の使用可能なすべてのチャンネルを使用します。StripTools では、すべてのチャンネルのピークが検出に使用されます。
 - すべてのサイドチェーン入力Strip チャンネルのモノラルミックスを使用する
 - サイドチェーン入力Strip の1つのチャンネルを選択します
- ポストFX
 - サイドチェーン入力Strip で、サイドチェーン入力信号のエフェクト前またはエフェクト後を選択します。

Bus ツール

- 以前のバージョンと同じ機能
- 64ビット処理
- 最大32の個別チャンネル処理
- 完全に再設計されたユーザーインターフェース
- 新しいルーティング機能、チャンネル選択

Generator

- 以前のバージョンと同じ機能

delay

- 以前のバージョンと同じ機能

External Insert

- 以前のバージョンと同じ機能
- 新しいSend のみオプションが追加されました
- Send のみモードの場合、エフェクトに入る信号はエフェクトの出力(次のエフェクトまたはミックス/Send)と外部Send 接続の両方に出力されます。
- センド/リターンモードでは、エフェクトに入る信号は外部センド接続に出力され、リターン信号はエフェクトの出力(次のエフェクトまたはミックス/センド)に続きます。

Phase Oscillo / Surround Meter

- (ベータ 1 時点ではまだ再設計されていません)

Effects with Monitor or no changes

- Modulometer





- *AnguDion II*
- *MS Encoder*

廃止されたエフェクト

- *Beta 1* に まだ存在するもの
 - *DeNoiser*
 - *Descratcher*
- *Beta 1* で削除されたもの
 - *AnguDion*
 - *Flanger*
 - *Aphro*

Flux VS3 プラグイン

Pyramix 15 では、新規ユーザー向けのソフトウェア パックに *Flux* プラグインが含まれなくなります。

つまり、初めて *Pyramix* を購入する場合、*Flux Verb* と *Studio* はデフォルトで提供されません。ただし、ASM 経由で以前のバージョンからアップグレードする既存のユーザーの場合は、*Flux Verb/Studio* のアップデートを受け取ることができます。

これらのプラグインが認識され、適切に機能するには、認証に *iLok* が必要になります。この変更により、*Pyramix 15* に移行する長年のユーザーにシームレスなエクスペリエンスを提供しながら互換性を確保できます。

重要なお知らせ：残念ながら、*Flux VS3* プラグインのリリースには、特にグラフィック面でいくつかのバグがあります。*Flux* は すべての問題を解決する新しいバージョンに取り組んでいます。*Flux* に連絡するには、連絡フォーム <https://www.flux.audio/knowledge-base/> を使用してください。

回避策：*Flux* プラグイン *UI* を開き、設定 (歯車アイコン) にアクセスして *UI* サイズを選択します。

VST サポート

VST2/VST3 UIコンテナが更新されました：

- エディター/ルーティング選択UIが更新されました

Side-Chain のサポート

サイドチェーンは現在、以下で利用可能です：

- VS3 プラグインダイナミクス と *Strip* ツール
 - サイドチェーンの設定はプラグインの特定のセクションで利用可能です (ダイナミクス / *Strip* ツールについては上記を参照)
- VSTプラグイン
 - 互換性がある場合、サイドチェーン設定はプラグインのルーティングページで利用可能 (*FabFilter Pro - Q* など)
- VS3とVSTのサイドチェーンサポートはネイティブとMassCoreの両方でサポートされています

Pyramix Transport

- 再設計されたUI のメイントランスポート
 - ジョグ/シャトルコントロール
- トランスポート/オートメーション ツールバーの UI が再設計されました
 - ジョグ/シャトルコントロール





- マシン選択コンボボックス
- オートメーションマスター出力参照コンボボックス

Pyramix フレーム / ツールバー

- 高解像度モニターをサポートするために完全に再設計
 - システム表示スケールに従う
 - システムディスプレイスケールの変更を更新するには、アプリケーションを再起動してください。
- ダークな外観
 - 再設計されたツールバーボタン
 - ベータ 1 では一部のボタン アイコンが欠落していましたが、ベータ 2 では完全に更新されます。

Pyramix エディター / タブ

- トラックヘッダーの再設計された UI
 - 同じ機能
 - すべてのボタンのテキストと色が異なる場合があります
 - より大きく、より見やすい自動化ハンドルとライン
 - オートメーションラインの色は、視認性を高めるために単一のライトグレーに変更されました。
- クリップの UI が再設計されました
 - 同じ機能
 - デフォルトのクリップ背景色を青に戻す
 - 波形のデフォルト色はクリップの背景色に従います(ただし、より明るい色になります)。
 - ダイナミック波形がデフォルトで有効(新規プロジェクト)
 - より大きく、より目立つハンドルと封筒
 - すべての設定タイムラインレイアウトページがそれに応じて更新されました
 - ビデオクリップの背景色が灰色に変更されました
- タブの UI が再設計されました
 - タブの順序は次のロジックで変更されました:
 - *Navigation* (Overview, Markers)
 - *Clips* (Selection, Fade Editor, Clip FX)
 - *Media / Libraly* (Media, Document Library, Global Libraries)
 - *Project setting* (Track, Track Group, Playlists, Workspace)
 - *Tools* (Mastering, FX Rendering, Metadata, EDL, ADR, Video, Log)
 - 主に UI の再設計ですが、いくつかの変更点があります:
 - 新しい Clip FX タブ、詳細は上記を参照
 - *Media / Libraries* にはアイコンがなくなり、レポートリスト表示モードのみになりました。
 - EDLビューは読み取り専用です。
 - ADR タブはデフォルトで無効になっています (Settings > Application Layout > Tab Wondows で再度有効にできます)
 - ビデオタブは削除されました

Pyramix Automation の改善 (およびバグ修正)





- 改善:オートメーションポイントが設定されていない場合でも、編集トラックにオートメーションラインを表示する
- オートメーションレーン:ポイントを追加するためにレーン自体より下または下に いる必要はありません
- 改善:手動値を微調整するための自動化曲線範囲位置の改善
- 改善:改善自動化エンベロープと自動化ラウンド値、タイプ値、傾斜
- オートメーション プレビューモードのバグ修正:トリムにより自動化ポイントが削除される
- バグ修正:自動化リップルが常に追従しない
- クリップを移動する際、誤ったオートメーション カーブが発生するバグを修正- *Auto Ripple*
- *VCA* から *Strip* を削除する際の改善。*Automation* が存在しない場合は統合を要求しない。

ビデオプレーヤー

ビデオプレーヤーの全面の 改良

- *Ffmpeg* デコーダーが更新されました(可能な場合はマルチスレッド デコードを含む)
- デコードでは、可能な場合はハードウェア アクセラレーション(*GPU*)を使用します(効率はビデオコーデック/形式によって異なります)。
- *Pyramix* ビデオ ウィンドウを表示するために使用される *OpenGL* エンジン。
- *Black Magic Decklink*はドライバーバージョン 12.8.1 から 14.1 までサポートしています
- *Black Magic Decklink* のパフォーマンスは以前のバージョンと同じです(フレームは*GPU* から *CPU* に 転送され、スケーリングは*Decklink* ハードウェアに渡される前に *CPU* で実行されます)。
- *Video* タブは現在無効になっています。

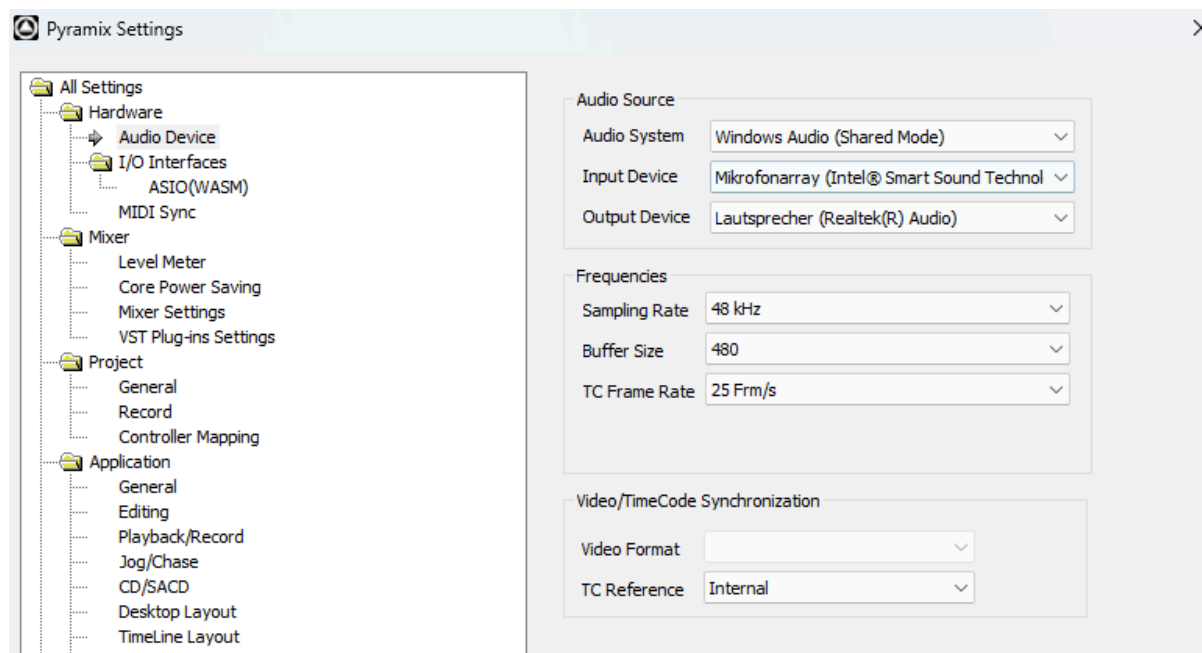




ネイティブ - VS3 オーディオ設定

VS3 - ネイティブエンジンのアップデート

- *Pyramix Native* のオーディオ設定は、*Pyramix* の *General Settings / Audio Device* に移動されました(*Masscore* の場合、*VS3 Control Panel* にアクセスする必要があるため、*Pyramix* を再起動する必要があります)



- アプリケーション実行中にネイティブオーディオデバイスを変更する機能(アプリケーションを再起動せずに)。
 - 新しい *ASIO* デバイスを使用するには、そのデバイスが使用可能で実行されている必要があります。
 - *Native* のみ(*MassCore* は引き続き *VS3 Control Panel* を使用してください)。
- *WASM* ユニバーサル *WDM - ASIO* ドライバー
 - *Windows* オーディオ デバイスの使用を許可します(*Windows* ドライバーと構成の制限が適用されます。たとえば、サンプリング レートやバッファー サイズはデバイスの機能によって制限されます)。
 - サードパーティの *ASIO* プログラムでも使用可能。

